

令和３年度 第１回 福岡市病院事業運営審議会 議事録

日時

令和３年 10 月 4 日（月） 19 時 00 分～20 時 20 分

場所

TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール ウェストルーム

出席者

別紙のとおり

会議次第

- 1 開会
- 2 委員紹介等
- 3 議事
 - (1) 会長の選出について
 - (2) 諮問
 - (3) 審議の進め方について
 - (4) 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応について
- 4 報告

福岡市立病院機構の経営状況について

議事録

- 1 開会

【事務局】

令和３年度第１回福岡市病院事業運営審議会の開催にあたり、委員総数 14 名の全員の出席があり、病院事業運営審議会規則第 7 条第 3 項の規定により会議が成立することを報告。

また、福岡市情報公開条例に基づき、本審議会は原則公開となる旨を報告。

- 2 委員紹介等

前回の総会以降に新たに就任された委員の紹介及び配布資料について確認。

- 3 議事

- (1) 会長の選出について

【事務局】

本審議会の会長であった、福岡市医師会の前会長、長柄委員の退任に伴い、現在、会長が不在となっているため、その選出をお願いしたい。審議会規則第6条第2項の規定により、会長は委員の互選となっているため、推薦をいただきたい。

<推薦なし>

推薦がないので、事務局から長柄前会長の後任となる平田委員に会長をお願いしたいと思うがいかがか。

<異議なし>

<平田委員同意・会長就任>

(2) 諮問

【会長】

議事2「諮問」について、事務局から説明を求める。

【事務局】

福岡市長より福岡市病院事業運営審議会に対し「福岡市民病院における感染症医療について」の諮問をさせていただく。

本日は市長が他の公務の関係で出席できないため、荒瀬副市長が代理で諮問文を読み上げさせていただきます。

【荒瀬副市長】

<諮問読み上げ>

(3) 審議の進め方について

【会長】

この諮問に対する審議の進め方について、事務局から説明を求める。

【事務局】

<資料3（審議の進め方について）の説明>

【会長】

ただいまの説明について、ご意見やご質問をいただきたい。

【委員】

専門部会を作るとのことだが、過去にこのような専門部会をつくったことはあるのか。また

それはどのような内容だったのか。

【会長】

事務局から説明を求める。

【事務局】

過去にも例はあり、平成 20 年に行った諮問の際には、こども病院・感染症センターの機能のあり方と福岡市立病院のあり方の審議を行う部会と、市立病院の経営形態のあり方についての審議を行う部会の 2 つの部会を設置した。

【会長】

他に意見がないようなので、質疑・応答は以上で終了したい。

事務局から補足で何かあるか。

【事務局】

具体的な部会委員の人選については、本日いただいた意見を踏まえ、会長と相談をしながら選定をさせていただきたい。

<異議なし>

(4) 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応について

【会長】

議事 4 の「新型コロナウイルス感染症禍における市民病民の対応」について、事務局より説明を求める。

【事務局】

<資料 4（新型コロナウイルス感染症禍における市民病民の対応について）の説明>

【会長】

先ほどの審議の進め方ともあわせて、意見、質問はあるか。

【委員】

今回のコロナ対応では、本当に市民病院は福岡グループで一番活躍したのではないかと思う。この病床数、職員数で、ECMO・人工呼吸器をまわし、よくまとめたと思う。

また、患者受入れだけでなく、職員がひとつの方向を向くことがとても大切であるし、感染症内科医ではないスタッフたちがコロナの診療にあたることは、すごくストレスで、モチベー

ションがなくなりかけたりする点について、メンタルサポートも上手にしたと思う。

さらに感染症内科の応援をたくさん送ったということで、九州大学にも敬意を表したい。

今回のパンデミックを経て、第8次医療計画の中に感染症が入るし、また地域医療構想の中でも、有事のことが今後検討されると思うが、これまで公立病院は、やり玉にあげりがちであったが、今回の活躍は、今後の公立病院のあり方ということで素晴らしいモデルになったのではないかと思いますので、ぜひポストコロナを考え、いい公立病院になって頂きたいと思う。

地域医療構想も、今回の事を経て、多分活発な議論になってくると思うので、引き続き頑張っていたきたい。

【委員】

看護学生の実習を受け入れていただいているが、病棟の看護職の配置を検討しながらの中、大変だっただろうと思う。そのような中、こども病院も市民病院も、次世代の看護師を育成しなければいけないという使命のもと、看護学生の実習を受け入れていただき、感謝申し上げる。

コロナの動向も先が見えなく、新たな新興感染症も出てくることを想定するならば、ますます看護学生が実習をすること自体、いろいろな課題が推察され、また実際に問題も出てくるのではないと思う。

実習受入れについては、各病院でいろいろな決断をした背景や葛藤があったと思うが、大学にも何か課題があったのではないかと思いますので、さらに検討しないといけないことがあれば、率直に話を伺いたい。

【会長】

看護学生の実習の受け入れの問題は、どこでも問題になっているが、ご意見をいただきたい。

【福岡市民病院】

基本的に医療従事者の実習は、トレーニングや経験ということが非常に重要で、感染症に対する対応自体も学びの場ではないかと思っている。感染拡大を防ぎつつ、各教育機関のルール、また受け入れる病院のルールの整合をとり、できるだけ多くの教育の機会を提供できるように考えている。

【委員】

福岡市民病院は、福岡市のコロナ診療の中心として働いたと思う。他の委員の意見に私から付け加えるとすれば2点あり、1つは、これだけ高度の医療、しかも量的にたくさんの患者を診ているそのバックグラウンドが、204床という全国的にみると小さい規模の病院で行っているとのこと。それがどうして可能だったのか、ぜひとも教えていただきたい。またそれに関連して、救急の受け入れの報告もあったが、コロナ患者だけでなく一般の診療も両立されている

ノウハウを教えていただきたい。

もう1点は、私たちは比較的、全国的にも院長同士の連絡会が機能的に動いたと思うが、市民病院は必ず詳細なデータを提供する。今日も細かいデータを提供しており、これを参考にし、私たちの病院でも、データを整理したいと思う。

【会長】

200床規模で、高度医療・救急・コロナ受け入れと、あとこれだけ詳細なデータを整理しているということで、市民病院からひと言ご意見を伺いたい。

【福岡市民病院】

私たちもご指導いただいている立場ではあるが、限られた病床数、スタッフ数で、今まで蓄積された高度救急医療・高度専門医療に、スタッフ一丸となって対応しており、それはコロナの前から、それら医療を公的医療機関としての姿勢で取り組んできたことが、今回の対応、責任を果たすことにつながったのではないかと思います。

この感染症の状況では、やはりコロナ陽性患者が潜んでいる可能性もあり、救急度にもよるが、きちんとチェックをし、場合によっては抗原検査を急ぐ場合もあるかと思う。また、通常の患者とコロナの疑いのある患者などとの搬送ルートを複数チャンネルつくって対応を行ってきた。患者が重なると対応が困難なことがあるが、救急対応というものは、これまでやってきたことが、今回、このような効果を発揮できたのではないかと思います。

先ほど話があったとおり、九大病院の感染症内科、多くのスタッフの方々ご助力をいただき、今回の大きな支え、柱となり、心から感謝している。

【委員】

市民病院をはじめ、今日参加の医療従事者の皆様に心からコロナ対策に関し、お礼と感謝申し上げます。

資料9ページの市民病院の対応のところで、医薬品・医療機器で生じた対応の中で8月に注射薬のレムデシビルが書いてあるが、軽症、中等症、重症の患者に対しどのような治療が行われたのか、また、最近の軽症患者に対するカクテル療法をどのように活用し、どのような効果があったということを公開して頂けると、市民は安心できると思うので、ぜひ宜しくお願ひしたい。

もう1点、コロナが第5波まで広がっている中、後遺症に関する相談が非常に多くの市民から寄せられており、ポストコロナ時代を見据えたうえで、後遺症の予防策や治療方法についても、ぜひ市民病院を中心に、医療関係者の連携のもとに、市民に分かりやすくご教授頂きたいと思う。

【会長】

かなり各論の部分ではあるが、いかがか。

【福岡市民病院】

感染症内科医を中心に、抗ウイルス療法に加え、ステロイドなどを組み合わせて、患者の状態をきちんと把握しながら進めてきたところ。

非常に発症の早期であれば、今はカクテル療法もかなり有効で、発熱が急に改善されることもある。ただし、適用が非常に限られており、そのことも含めてどのようなシチュエーションで投与するのか、多くの医療機関の協力のもとに進めていくことが必要。

また後遺症についても重要なポイントであり、私たちが治療した後、長期的なスパンで考えていかなければならないことで、各医療機関との連携が重要になってくる。チームでの医療が重要なポイントとなるので、皆さんから指導いただきながら進めていければと思う。

【委員】

市民病院のサイズで第二種の感染症指定病院になることを以前聞いた時、本当に大丈夫かと言ったことを思い出すが、第二種の感染症指定病院がここまで働くような状況が来るとは夢にも思っていなかった。

コロナの最初の頃の報告からは、市民病院からシステマチックにこういう感染症医がいるといわれたわけではなく、とにかく感染症医が疲れているが、市民病院で働いている方々は非常に前向きで戦う気持ちが強いこともあり、感染症グループ内において市民病院に行かなくてはならないということから、何人かの医師が移動したというのが事実。

診療科を超え、医師も看護師も一丸となって市民病院が対応にあたったのがよく分かっており、この状態で黒字にしたということは非常に良かったと思う。

第二種の感染症指定病院としての始まりはとても計画的とはいえなかったと思うし、今回のコロナも第二種ということで頑張ってきたということであるが、もう少し次の世代では、第二種の感染症指定病院を前提としたシステムづくりを期待している。

福岡市の市民病院のコンビネーションを非常に強く感じたし、次も無事に乗り切っていくと思う。

【委員】

今回、市民病院は本来期待された機能をしっかり果たした素晴らしい病院だと思う。病院全体で高い感染対策が求められる中、多くの症例に対してしっかりと治療してきたということが本当に素晴らしいことだと思う。

感染症医療とは違うかもしれないが、ワクチン接種についても、深夜の接種会場というかたちで協力をしているかと思うが、その意味でも福岡市民の安心安全を守るという、非常に大き

な貢献をしていると思っている。

感染症専門部会に対する一つの論点から、ぜひ専門部会で議論していただきたい点について提案させていただく。

今回示していただいた資料では、福岡市全体から見て、市民病院はどういう位置づけにあったのかについて、見えてこない部分もあるかと思う。他の病院と比べて市民病院はどうだったのか、福岡市全体からみて市民病院の治療がどうだったのか、患者の受け入れとか重症患者の受け入れがどうだったのか、といったところを見ることによって、もし改善のポイントがあるならば、次なる新興感染症に対しても論点整理ができると思う。

そのためには、福岡市が持っている国民健康保険加入者のレセプトデータ、後期高齢者のレセプトデータ、コロナ感染症のPCR陽性であったかがわかるHER-SYS、重症患者という意味ではワクチン接種という点が重要なのでVRSなどのデータをリンケージしたうえで、客観的に市民病院はどうだったのかを検証することが、市民病院の対応の検証につながるし、とりまとめに向けても、ほかの医療機関との連携について検討できると思うので、専門部会ではそのような観点での検証をお願いしたい。

またとりまとめでは、コロナ以外の医療への影響を見ていかないといけないところもあり、レセプトデータは国民健康保険加入者と後期高齢者しか入っていないが、これも併せて評価できるのではないかと思うので、そのような視点でデータに基づく検証をすることが大事ではないかと思うので、検討いただきたい。

【事務局】

評価を行うには客観的なデータやエビデンスが必要だと認識しており、部会においては、市民病院の評価が確実にできるよう、どのようなデータが必要なのか、また準備できるのかも踏まえて、検討していきたい。

【会長】

意見も出尽くしたようなので、質疑・応答は以上で終了させていただく。

本日の議事は以上となり、ここからの進行は、事務局にお返しする。

4 報告

福岡市立病院機構の経営状況について

【事務局】

<別冊「福岡市立病院機構の経営状況について」の説明>

閉会